

ずいそう

ちょっと考えれば（調べれば）わかること

本 名 一 夫



1. 自然エネルギーで全ての電力をまかなえるのかなー？

たとえば風力発電を考えても、あれは風車直径分の風のエネルギーしか捕捉しないよなあ。しかも風車前後の風速差の分だ。とりあえず風力発電機を海岸線にズラーっと、と言ってもせいぜい10基くらい並べたところで大したものにはならないよなーと直感します。

そこで調べてみると国内最大級の風力発電機（プロペラ直径90m）1基の出力は最大3,000kW。もちろん風はいつも吹くわけではない。実際の稼働効率は20%程度だから600kW。一方火力発電プラント1機は170万kW、原子力発電プラント1機は138万kW。巨大風車を2,300機立てないと原発1機に匹敵しない＝ほとんど不可能（以上、「自然エネルギーの可能性と限界」石川憲二、オーム社、より）。

太陽電池の発電量は実態として1m²あたりせいぜい50W。本気で主力電源にしようとするとならば十分な面積が必要になり、日本にはとてもそんなスペースは無い（上掲）。

脱原発の気持ちが高ぶる中、自然エネルギーへの期待が願望にエスカレートしている人々がいるようです。風車（パネル）をパラパラとたてればその一帯に吹く（注ぐ）風（太陽光）の全エネルギーが捕捉できるかのような錯覚に陥っているのではないのでしょうか。

「空気（質量×風速の2乗）」と「ウラン（質量×光速の2乗）」では所詮比較になりません。当面、今ある原発を使わないで、国力の維持とCO₂削減を同時に果たす選択肢はないと思われます。

2. コラーゲン、ヒアルロンサン、コンドロイチンって本当に効くのかなー？

口から入れて、胃に入って…そのまま効いてほしい膝関節に注入されればいけどと思っても、生物学者の福岡伸一氏によると、「コラーゲンはタンパク質だから消化されてアミノ酸に分解されてしまう。コラーゲンがそのままの形で体内のどこかに入り込むなんて生物学的にはあり得ない」ということです。

やっぱりね。ヒアルロンサン、コンドロイチンにつ

いても、経口摂取の効果には「信頼できるデータはない」などと疑問視されている（独国立健康・栄養研究所「健康食品の安全性・有効性情報」）。

そういうことを分かってか、分からないでか、わりと教養のあるひとでも「飲んだら調子良かったよ」などと、現実、言うのです。「病は気から」の逆で、効くと思えば効くこともある。メーカーも消費者も双方良しということなら、それ以上は申しません。

3. 日本の国会議員の数って、多いのかなー？

何かと言うと「それよりも国会議員の数を減らせ！」とくる。しかし、人口当たりの国会議員数はOECD加盟34カ国中、日本は下から3位です。最も低いのがアメリカで、上下両院で535人。それとの比較で多い多いと言う評論家がいるが、アメリカは州政府の権限が非常に広範囲であり、米連邦議会と日本の国会との比較はできない。主要国の国会議員数を見ると、イギリス1,050人、ドイツ755人、フランス898人、イタリア955人でいずれも実数で日本を上回っている。

要は、個々の国会議員の仕事ぶりや言動に対する（誤解も含めた）謗りと、議員数の議論とを混同しているわけだ。議員数をあまりに減らすと、政治の安定性や、選挙時の投票判断などに障害が発生すると思われる。議員の処遇が過大というなら、そこを改正すべきだが、実際、議員はリスクのある職業（落ちたら只の人）だし、事務所運営にも相当な費用がかかるのは事実。「国会議員・国家公務員を減らせ」というのは、単なるヤッカミかあるいは、何かから大衆の目をそらす別の意図に見えるのです。

* * *

「規制緩和」「改革」なども、「この印籠が目に入らぬかー！」という調子で言葉だけまかり通るの感がありますが、それらが一体何なのか、あまり実際的に考えられているとは思えません。

というわけで、日本人のアタマはもっと合理的・論理的・本質的思考にならねばイカンなあと、つくづく思う次第です。